特別
へ13
4271
52

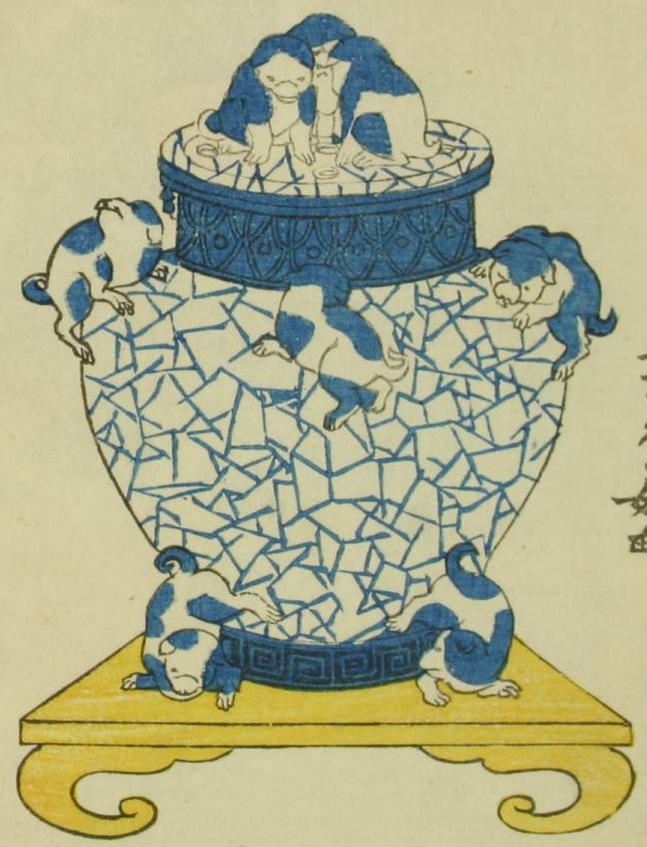
特別
へ13
4271
51

特別
へ13
4271
51

A13
4471
51

絵名読
八犬傳
廿七編上

曲亭主人 編
一勇斎國芳 畫
文濱軍棒



91-2294

此篇殊に大老實攻伐の支多くして。婦女に賊婦船虫あること。艶麗なる段少くまた當を婦幼に取易くるを。故に抄録せるざまも。硯に千瀉とあるまでに。凪くる風に帆を揚る。筆の走らねをいくばせんぢまと方今文武の二道。盛昌に與ーあゆえに。童蒙までも彼猥褻を。厭ふもの多くあつ。かれば此篇軍の多きも。亦迂當でもあるまに欣と。思ひるかたも卑怯の至り。本意は奬善癉惡の。為とて手前勝手口から。奥院までうち開く。序を半丁に述ること尓り

安政五年戊午春正月吉日新敗　曲亭琴童識

農夫鬼四郎

牛鬼
馬鹿女房
猿
鬼四郎妻

船
温

つぎき
温
魚
瓶

小
松

媼

信

二
道

小
道
信
乙
荘

現

つるぎ
犬坂毛野のみち
信
道

でさのかりてさらにかのこと
みりどしるさろうかう
くるをまちつかのよう
つうとのさうどのかうは
▲いろみとうぐひろ
ひめさろふろみうる
こまとろさろかのさぐる
あかのうぐひとうり
ぬは人たあつかけて
まぐのうえあのむた
うるをきてまりつ
こまけんとてつま
だちてまかたるのる
あんまざうのまくある
木ふつるぐはたつたころ
さまさる男女まりあみ
のうがりもまこその
きこのかとふありくはぐ
とうくいろかのとおど
ろたさろたてこみ
さちまりてよくこるみ
まくる男女のそぐう
みいそのつこころを
あうーてまりこま
みてここつぐさみて
こうひさぐ平あみ
のかたころしる

みて者うま
くはぐまくひ弟う
あたうく
ぎをここそ
みりのつの
ちみそこれば
ぬは人ふうふ
をこうぜーハ
このりみる
ぐひそも
あみ人うかう
めうてくへ
たうこうひこうくん
ひとあくこみたあるよ
ちうきむーうをこみりをつけて
こうろのこことわろこのみ
あけのあさいさうごの城内ぐうへ
うろえこうあるふこの日城外ぐうみ
ゆありればさこみあよぐぜ三日み
いうゆりとせんはてふみりとあそ内ぐ
らびをたあべみきうりみるこあちこへ
きこえみるこべ人こゆあどうきゆ中こそ
ぬは人ふうふこのまめてそのつこらぐを
あうくとこびへ人まるしあひーいあんまのまへ
ぐんあうーんとこさんくへうんあ者ま者ーうーみ
のちみんぐんのめこさうへあうのこうへうこされうろ
まこあみ四ぐうありしへぬは人ふうふをつき
こうしる大功弦あるめまこへとて

つぎうへ

家傳神女湯 婦人産後 道藏靖 包代百銅 の妙薬

精製可應丸 大包代二朱中包代一匁五下小包代五下

熊膽黒李子 一包代五分

婦人産の妙藥 一包代六十四銅 生色代三十二銅

製藥本家 東信濃 瀧澤氏 殿下町 坂上

弘處 元飯早中坂下 四方の向 九死沢氏

東都書林 文溪堂 森傳馬町二丁目 丁子屋平兵衛

清香藥 梅紅雪 一包價 七十二銅

奇藥 梅の花 徳利編入 價六十四銅

猫の
生涯

かゝみ
八犬傳
廿七編

曲亭馬琴編

一雪齋國芳画

下帙

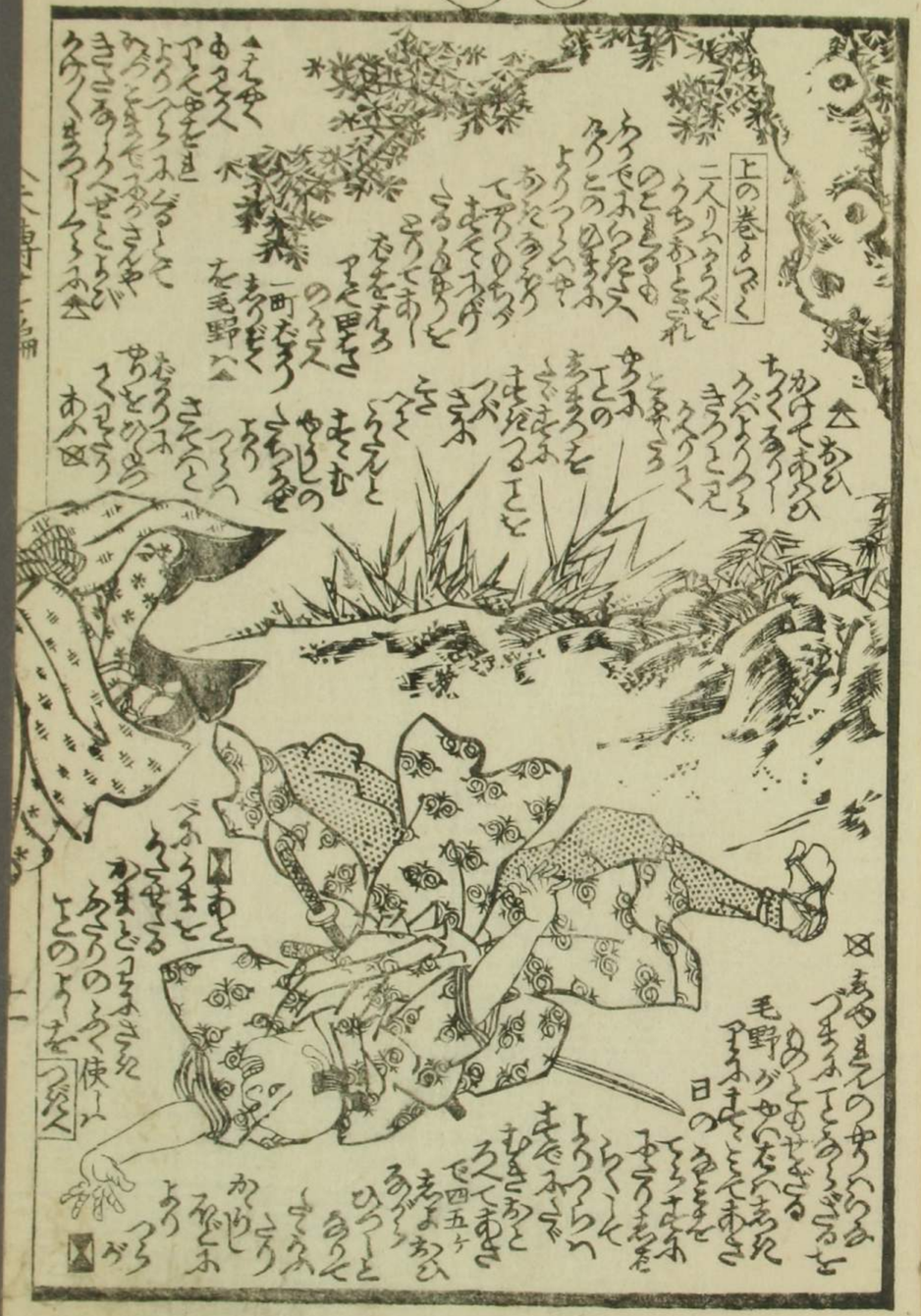
特別
へ13
4271
52

へ13
4271
52

毛野傳
サセウン
下

曲亭馬琴著述
一蕙斎国芳画
文海堂梓

91-2295



連

毛

連

虎

晉

つぎ のぢりて五ッまで
みそ あり みろ
○さて犬田こまこ仁田山
ちゑ五ハ犬川さう 丈
みたまゑ〜〜〜あいまた
まそ みあるうろう
ろう そろ ぬのあ〜
つよ ろれ ゐあらひ
たるうみ みぎのびて
ぎていきうこて
ちゑうちあう
ちゑんせんとていそぎ
わどみ谷山おの
みとうとうる一ト ぢう
ちゑぎき木このまよう
さまとていちゑうまを
えるつ矢みちゑ五ハ
ひどうのくこえとうう
まえうまよう
ぎうとちゑうちみう
そのときこどんの
ところ四五人
ひゑう
えーうきう仁田
山ちゑ五をあと
ゆたえをせたや
ひりくとるつこを

△もびとの
ぎあ〜えや
ゐ巳りの
いくさろう
あひくみ
ろうきそ
ちろうの
りんをう
うつさる
えをこみ
あどろうこと
こまてをきく
みゑ大山
毛野
ぐ武ぶ
ぐい
ゆうかん
あぐ
うちの△

めけてちうみつる
ちそのくあき
さろそぐ あろみ
一人りのざう
ひゑうちゑ五ぐ
うえのあど
ろきれーるを
ちろーーろみ
ちひうみてうぎ
ろうこひうりと
みげうみて馬を
そくそうう
ちゑひたうぎ
めみを
ひとしくうけ
ぐうのる
むどあうと
さめてちゑ
もあうぎ
めうともみ
めとのこうげんちう
ぞそううめざう
ふうろみこう
こまとうさゑみ五十
子ぎの ちゑうるい
みいうつるゑう
びふふーうの△

△ありさゑと犬川
犬田こまの
太刀なのうり
つぶさうみ吉上ぶん
ちうりろうさぐ
まくさぬーい
うちきさそさんぎ
ろうけーいも
ゐくそいまく
ちろうざるう
ゐぐうよーや
そのくせめ
らいあまさる
ちゑのゆう
ありーもこうさ
のくせいみ
てんせんや
そどもるく
きうちゑぐるく
ふうそびちゑう
ちゑんあるるうん
さいまとうぎん
のくあるるまぐ
かせいの つぶく

小
莊

毛

つぎきさよぶろを
そんとてまみ
るみちのあまつ
ちのたりなきべ
ゆたもあと
うちあとろたなり
よろつさまさの
うまのろりこを
ちくいさあるもの
ことのあるもんへ
くのよりめくろぐ
まことのむかやう
このとーどろひぎ
かんあくまくろ
つるなのみそのろ
さまさくちうまんの
あひだくくのろと
ぞあーうもしこと
そのちまりつはを
ちくくんまとくろ
けふきまろさ
まもあんたち
るくさそあの
かまどがこうしの
ろうこのさのつも
丸茶ぶうちと
なんとぶくハりつ

とものろ
うろざるの
とのさを
あがり
つぶく

八犬傳廿七編
定
つるさ
めさ

八犬傳廿七編
十九

定
仲

東都書林　文溪堂　大傳馬町三丁目　丁子屋平兵衛

神方　ほけごの薬　一包二十銅

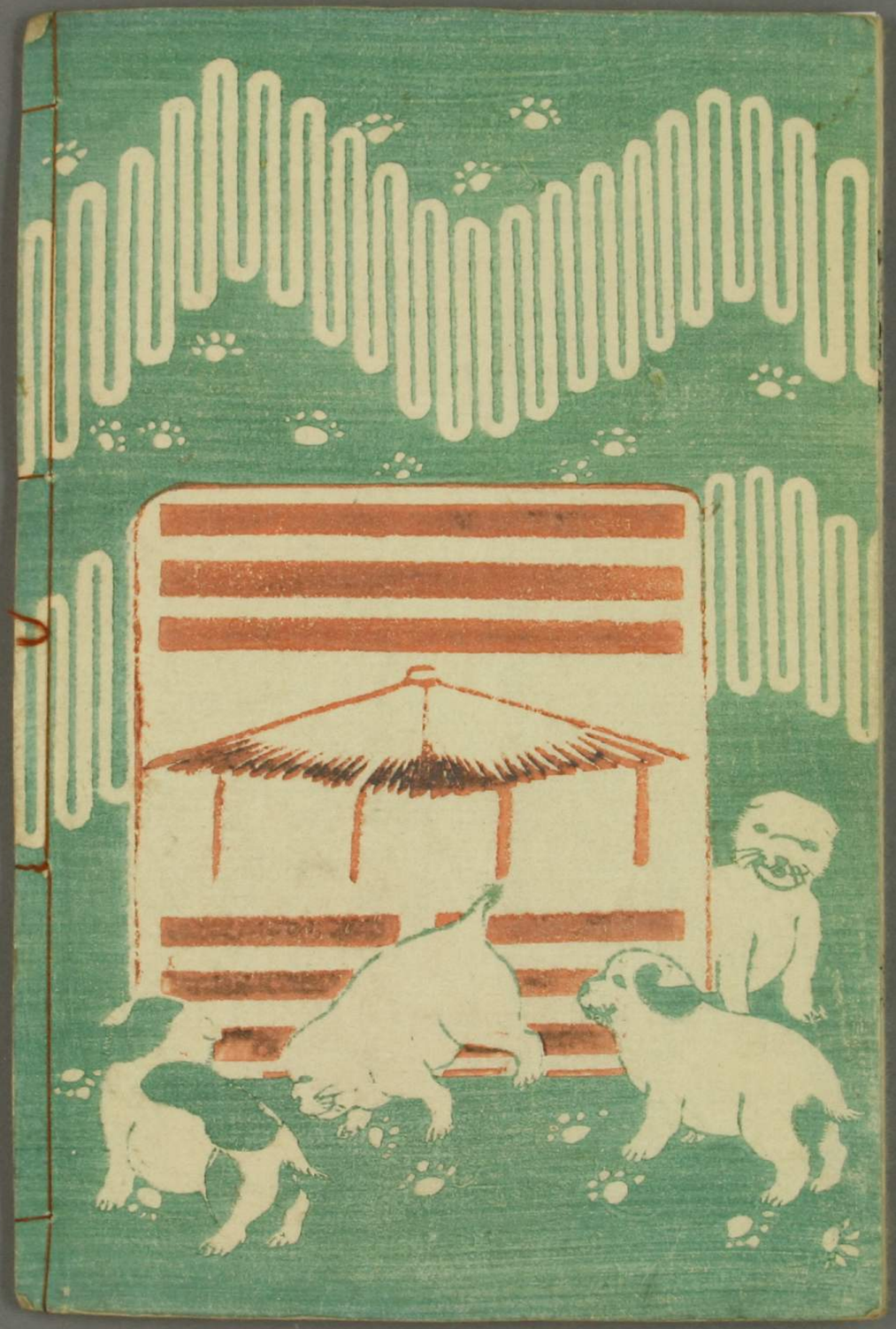
湯やけどやけどの二種あり火ぶくれとなるもの薬を塗りつけまたつゆ汗疹となるもの薬を早速塗ひて五六所ほどさしを塗るべし痕も消ふ秘伝代の良薬

かんの薬　一包二百銅　半包百銅　小包四十八銅

小児の病癖の風を治す種々の薬あるのみそ流方むつかしく医者もなしとく使るのみ人の薬八味の眼ぶくれ十五文門の小児をとさうはつ中ふ五疳及び疳毒目ふも功能をつくしたりの人

懐中白粉　玉艶紙　一帖　價四匁

玉艶紙は化粧をなるとるせつかの紙のもちらるくのびる紙一ふ艶をとるる紙ふ又ハ紙ふて艶をとるるとて紙ふて艶をとるるとて紙ふて艶をとるるとて



琴童錄
二十七編
國芳畫